



# 2025年3月期第1四半期決算説明資料



2024年7月25日  
メタウォーター株式会社

## I 2025年3月期第1四半期決算ハイライト

## II 2025年3月期第1四半期決算概要

(損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フローの状況)

## III 参考資料

## I 2025年3月期第1四半期決算ハイライト

## II 2025年3月期第1四半期決算概要

(損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フローの状況)

## III 参考資料

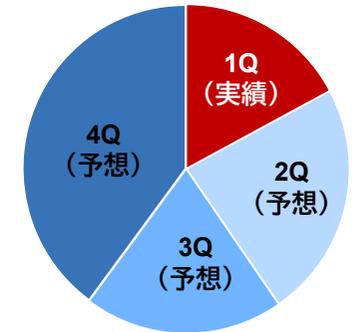
# '25/3期1Q 決算概況(連結)

## ■受注高

環境エンジニアリング事業、システムソリューション事業、運営事業、海外事業共に前期実績を上回った。

(参考)受注残高：'24/3期1Q末 2,593億円 ⇒ '25/3期1Q末 3,141億円(+548億円)

'25/3期 四半期別売上構成



## ■売上高・利益

当社グループの事業は、国内公共事業が大半を占め、売上・利益が4Qに著しく偏る傾向があり、例年1Qの売上高は年間の1~2割程度。

当1Qは、環境エンジニアリング事業および海外事業が順調に推移し売上高・営業利益共に前期を上回った。なお、経常利益には為替差益(3.8億円)を含む。

(億円)

	受注高	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 四半期純利益	1株当たり配当金(円)	
'25/3期 1Q実績	641 前期比：+123 +23.8%	250 前期比：+39 +18.2%	-21 前期比：+5	-17 前期比：+5	-16 前期比：+3	-	
'24/3期 1Q実績	518	212	-25	-21	-19	-	
'25/3期 予想* (*'24.4.24公表)	1,900 前期比：▲219 ▲10.3%	1,700 前期比：+44 +2.7%	90 前期比：▲9 ▲9.1%	87 前期比：▲18 ▲17.1%	61 前期比：▲8 ▲11.3%	第2四半期末 24	期末 24

※10百万円単位を四捨五入(以降の実績値も同様)

# セグメント別概況（連結）

(億円)

	受注高			売上高			営業利益		
	'24/3期 1Q	'25/3期 1Q	増減	'24/3期 1Q	'25/3期 1Q	増減	'24/3期 1Q	'25/3期 1Q	増減
環境エンジニアリング事業	130	163	+33	54	71	+17	-11	-8	+3
システムソリューション事業	160	181	+21	53	52	▲1	-14	-15	▲2
運 営 事 業	138	191	+53	51	57	+6	5	3	▲2
海 外 事 業	89	107	+17	53	70	+17	-6	-1	+5
合 計	518	641	+123	212	250	+39	-25	-21	+5

# 環境エンジニアリング事業・システムソリューション事業

(億円)

	受注高			売上高			営業利益		
	'24/3期1Q	'25/3期1Q	増減	'24/3期1Q	'25/3期1Q	増減	'24/3期1Q	'25/3期1Q	増減
環境エンジニアリング事業	130	163	+33	54	71	+17	-11	-8	+3

**【受注高・受注残高】**

水環境事業および資源環境事業共に順調に推移。

**【売上高・営業利益】**

水環境事業においては、補修工事を含むサービス分野の業績が順調に推移し、売上高・営業利益共に前期を上回った。  
資源環境事業においては、大型の建設工事案件が順調に推移し、売上高・営業利益共に前期を上回った。

主な受注:住之江下水処理場雨水滞水池設備工事(その1-2) (3,410百万円)

	受注高			売上高			営業利益		
	'24/3期1Q	'25/3期1Q	増減	'24/3期1Q	'25/3期1Q	増減	'24/3期1Q	'25/3期1Q	増減
システムソリューション事業	160	181	+21	53	52	▲1	-14	-15	▲2

**【受注高・受注残高】**

システムエンジニアリング事業およびカスタマーエンジニアリング事業共に順調に推移。

**【売上高・営業利益】**

システムエンジニアリング事業においては、工事進行基準の売上高が前期をやや下回り、売上高・営業利益共に前期をやや下回った。  
カスタマーエンジニアリング事業においては、補修工事や更新工事などが順調に推移し、売上高・営業利益共に前期と同水準となった。

主な受注:金町浄水場第1高度浄水施設電気設備等改良工事 (1,485百万円)

# 運営事業・海外事業



(億円)

	受注高			売上高			営業利益		
	'24/3期1Q	'25/3期1Q	増減	'24/3期1Q	'25/3期1Q	増減	'24/3期1Q	'25/3期1Q	増減
運営事業	138	191	+53	51	57	+6	5	3	▲2

## 【受注高・受注残高】

サービス子会社における大型案件の受託により前期を大幅に上回った。

## 【売上高・営業利益】

売上高は子会社の業績が順調に推移し前期を上回ったが、営業利益は一部の低粗利案件の影響により前期を下回った。

主な受注: 周南市徳山中央浄化センター再構築事業(プロジェクト総額19,136百万円)のうち機電メンテナンス、維持管理・運営

	受注高			売上高 <sup>※1</sup>			営業利益 <sup>※2</sup>		
	'24/3期1Q	'25/3期1Q	増減	'24/3期1Q	'25/3期1Q	増減	'24/3期1Q	'25/3期1Q	増減
海外事業	89	107	+17	53	70	+17	-6	-1	+5

## 【受注高・受注残高】

北米子会社および欧州子会社が順調に推移し前期を上回った。

\*1 うち為替影響6億円

\*2 海外子会社買収時ののれんほか無形固定資産等の償却 1.8億円処理後

## 【売上高・営業利益】

北米子会社および欧州子会社の業績が順調に推移し、売上高・営業利益共に前期を上回った。

主な受注: ジョージア州下水処理場向けクロスメディアフィルター、鉱山向け廃水処理装置

## 「第1回PPP/PFI事業優良事例表彰」で「大臣賞」を受賞

当社が代表企業として参画する「宮城県上工下水一体官民連携運営事業」の事業会社「株式会社みずむすびマネジメントみやぎ」が、内閣府が主催する「第1回PPP/PFI事業優良事例表彰」において、宮城県企業局と連名で、他の模範となる特に顕著な実績を有する事業に送られる「大臣賞(人口20万人以上の地方公共団体、国などで事業化された事例部門(部門A))」を受賞。



### 【評価ポイント】

複数の浄水場などを一体的に運営する、分野横断・複数施設型のウォーターPPPの先導的な事例として、

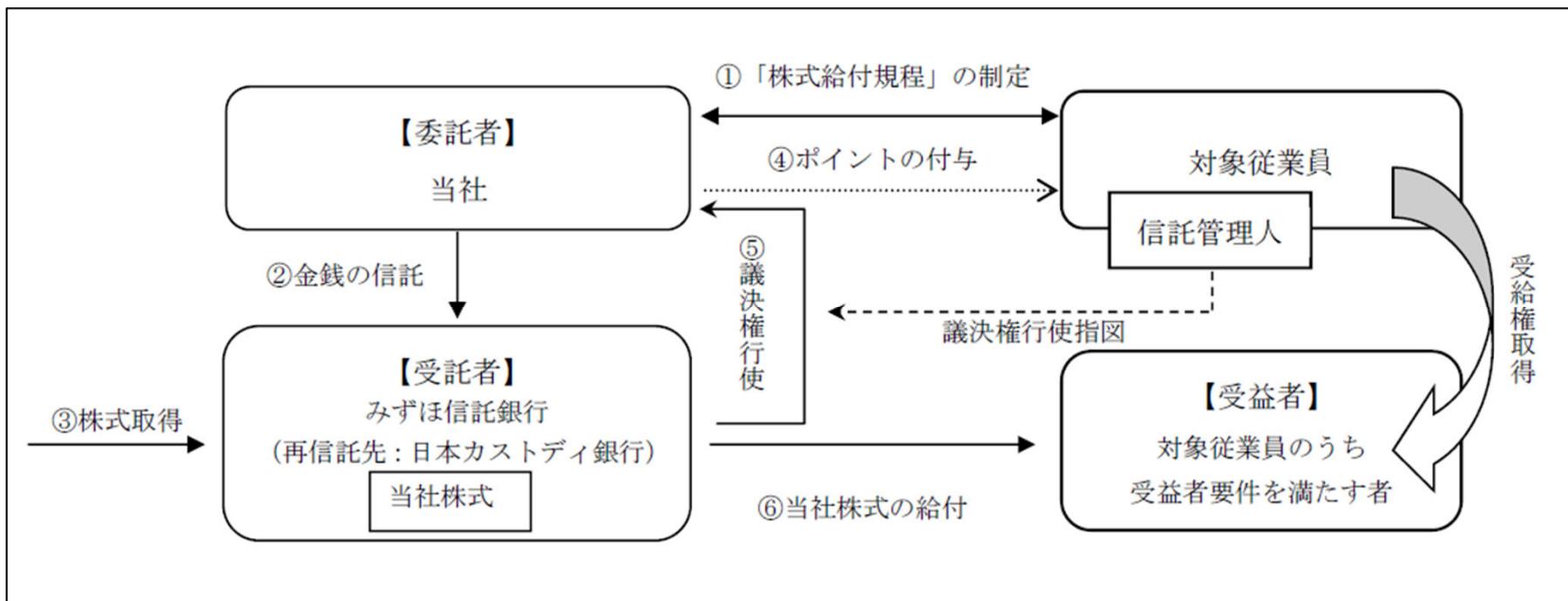
- ・デジタル技術の活用で、経営管理・維持管理・改築の情報を一元化し、効率的な運転管理・保守点検、監視などが実現したこと
- ・20年間の長期事業で337億円のコスト削減を実現するとともに、水道料金引き下げなどの公共サービス水準の向上、脱炭素による環境負荷低減などが図られること
- ・地域の水インフラを支える会社の設立に伴い多数の地域人材を雇用するとともに、SPC構成企業として地元企業が参画するなど地域経済に貢献していること

## 株式給付信託(J-ESOP)の導入

当社の株価や業績と従業員の処遇の連動性をより高めるため、従業員に自社の株式を給付するインセンティブプラン「株式給付信託(J-ESOP)」を導入。

- 【導入の目的】
- ・当社の中長期的な業績や株価への意識を高める
  - ・持続的な成長を目指した業務遂行の推進
  - ・株価上昇が従業員の財産形成につながるよう「人的資本投資の一環」

### 本制度の仕組み



I 2025年3月期第1四半期決算ハイライト

II 2025年3月期第1四半期決算概要

(損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フローの状況)

III 参考資料

# '25/3期1Q 連結損益計算書(対前年増減)

(億円)

	'24/3期 1Q実績	'25/3期 1Q実績	増減
売上高	212	250	+39
売上総利益	26	41	+15
営業利益	-25	-21	+5
(営業利益率)	-11.9%	-8.3%	+3.7%
営業外損益	+4	+4	+0
経常利益	-21	-17	+5
法人税等	-4	-2	+2
非支配株主に帰属する 四半期純利益	1	1	+0
親会社株主に帰属する 四半期純利益	-19	-16	+3

## 売上高 増減

主に環境エンジニアリング事業および  
海外事業が順調に推移 +39

## 営業利益 増減

売上増影響 +5

売上総利益率UP(12.4%→16.5%) +10

販売管理費増 ▲11

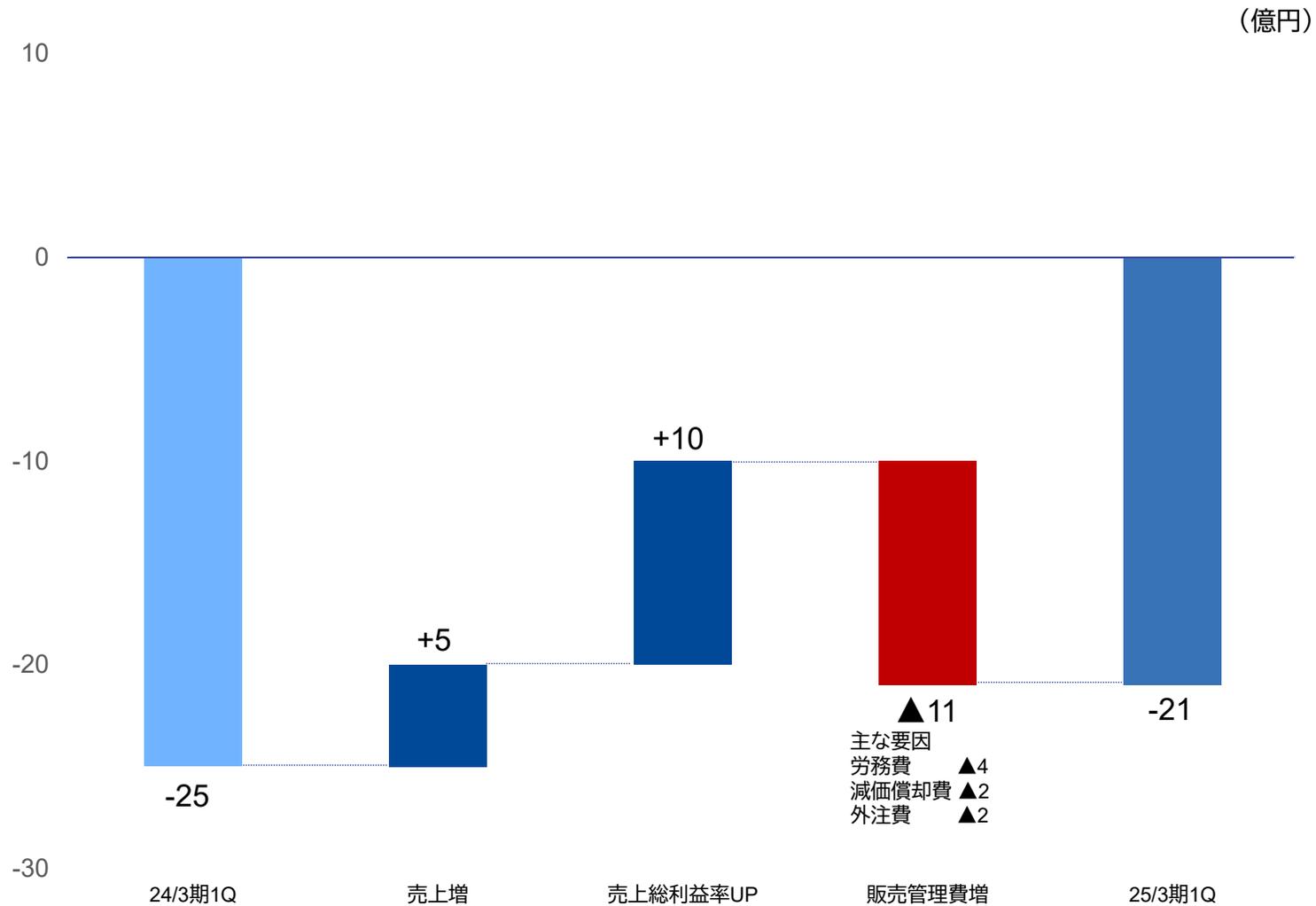
## 営業外損益 増減

利息及び配当(0.3 ⇒ 0.6) +0

為替差損益 (4.2 ⇒ 3.8) ▲0

# '25/3期1Q 対前年 営業利益増減

当1Qは、売上増および案件構成差による売上総利益率UPなどにより増益



# 連結貸借対照表

当1Qは売上債権・契約資産の回収により現金・預金が増加。

(億円)

	'24/3期 期末実績	'25/3期 1Q末実績	増 減
現金・預金	149	469	+321
売上債権・契約資産	1,031	526	▲505
仕掛品・貯蔵品	137	165	+28
その他	44	35	▲10
<b>流動資産計</b>	<b>1,361</b>	<b>1,195</b>	<b>▲166</b>
有形固定資産	58	61	+4
無形固定資産	161	164	+3
繰延税金資産	23	24	+1
その他 <sup>*3</sup>	87	89	+2
<b>固定資産計</b>	<b>328</b>	<b>338</b>	<b>+11</b>
<b>総資産計</b>	<b>1,688</b>	<b>1,533</b>	<b>▲155</b>

	'24/3期 期末実績	'25/3期 1Q末実績	増 減
買掛債務	323	207	▲116
短期借入金 <sup>*1(7)</sup>	43	(8)	▲35
契約負債	106	175	+70
その他	173	107	▲66
<b>流動負債計</b>	<b>645</b>	<b>497</b>	<b>▲148</b>
社債・長期借入金 <sup>*2(127)</sup>	227	(124)	▲4
その他	59	62	+2
<b>固定負債計</b>	<b>287</b>	<b>286</b>	<b>▲1</b>
<b>負債計</b>	<b>932</b>	<b>783</b>	<b>▲149</b>
<b>純資産計</b>	<b>757</b>	<b>750</b>	<b>▲7</b>
<b>負債・純資産合計</b>	<b>1,688</b>	<b>1,533</b>	<b>▲155</b>

\*1 \*2：カッコ内の数値はPFIなどプロジェクトファイナンス・ローンの金額

\*3：繰延資産含む

# 連結キャッシュ・フローの状況

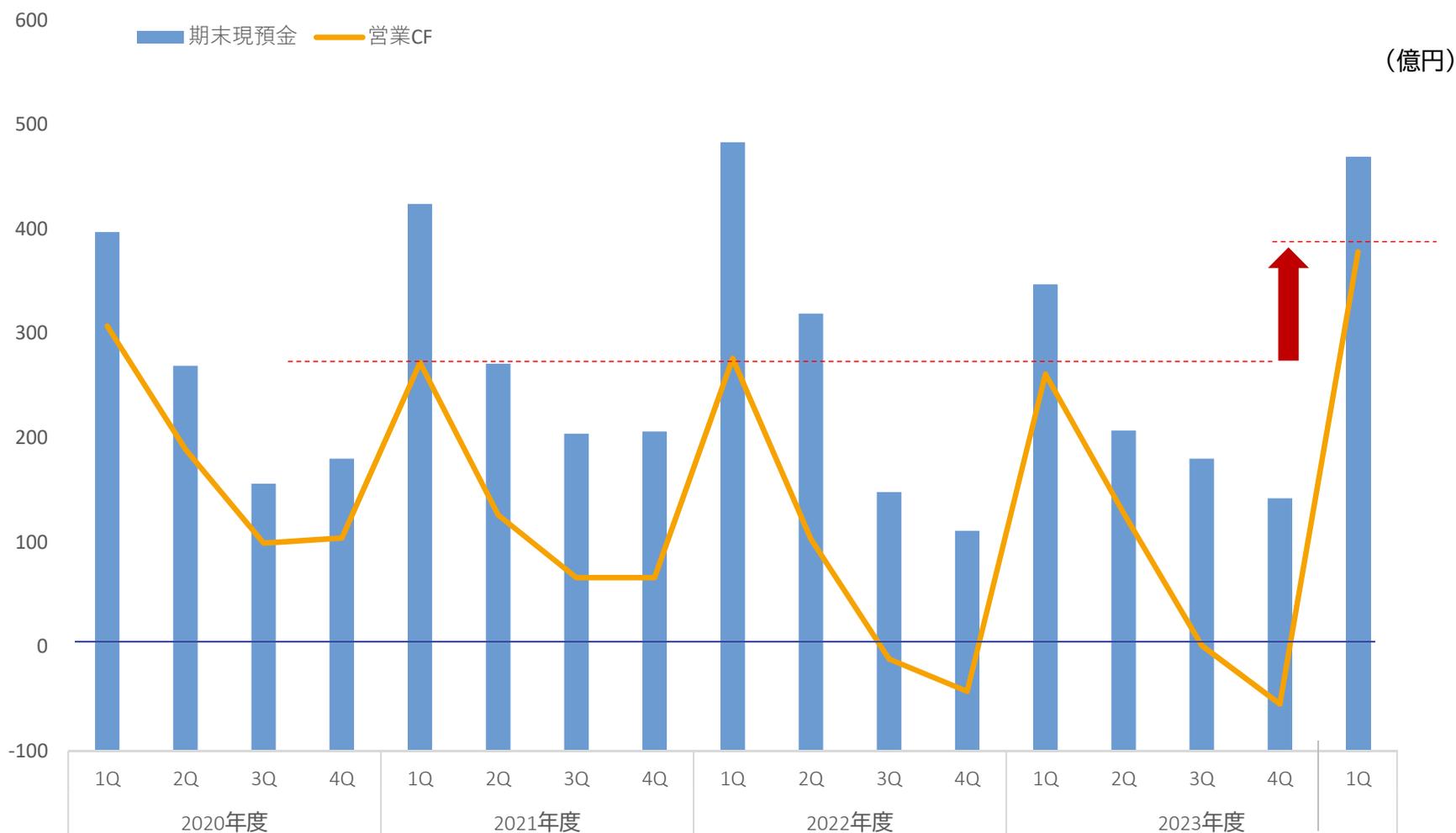
大型案件の入金により営業キャッシュ・フローは大幅増加

(億円)

	'24/3期 1Q実績	'25/3期 1Q実績	増 減	
現金・現金同等物の前期残高	111	142	+31	
営業キャッシュ・フロー	261	374	+113	売上債権回収 +119 買掛金支払など▲15
投資キャッシュ・フロー	-25	-13	+13	更新投資の減
フリー・キャッシュ・フロー	236	362	+126	
財務キャッシュ・フロー	0	-41	▲41	借入金の返済
現金・現金同等物に係る 換算差額等	0	0	0	
現金・現金同等物の期末残高	347	463	+116	

# 連結キャッシュ・フローの状況

- ・通期売上高の約6割は自治体の検収が行われる4Q（1～3月）に集中。
- ・案件の大型化や工期の長納期化により資金回収は従来より後ろ倒しになる傾向、一方 建設業法の改正影響により協力会社への支払いが早期化し、4Qの営業キャッシュフローが一時的に悪化。
- ・現預金、営業キャッシュ・フローの悪化は、翌期の1Qに解消。



## I 2025年3月期第1四半期決算ハイライト

## II 2025年3月期第1四半期決算概要

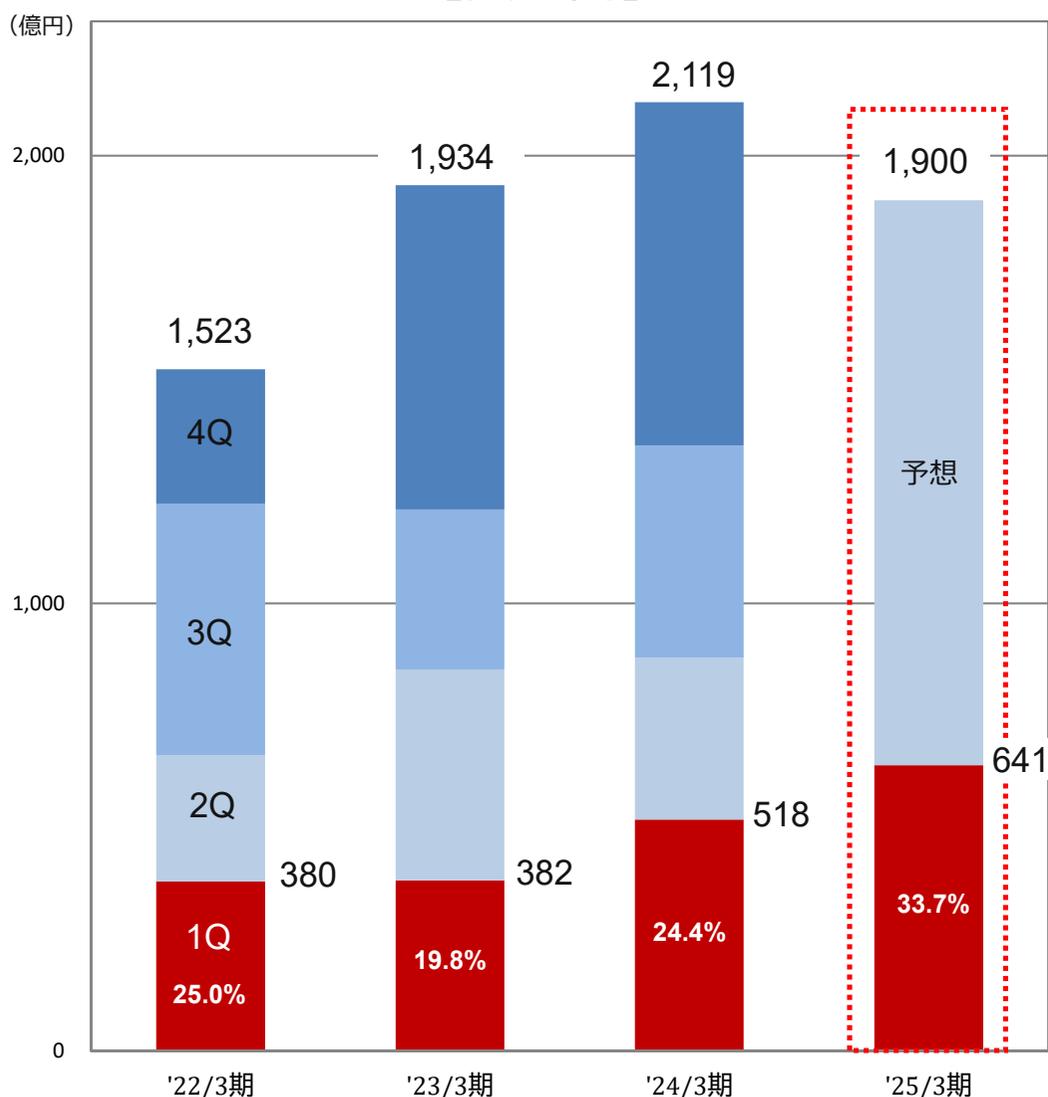
(損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フローの状況)

## III 参考資料

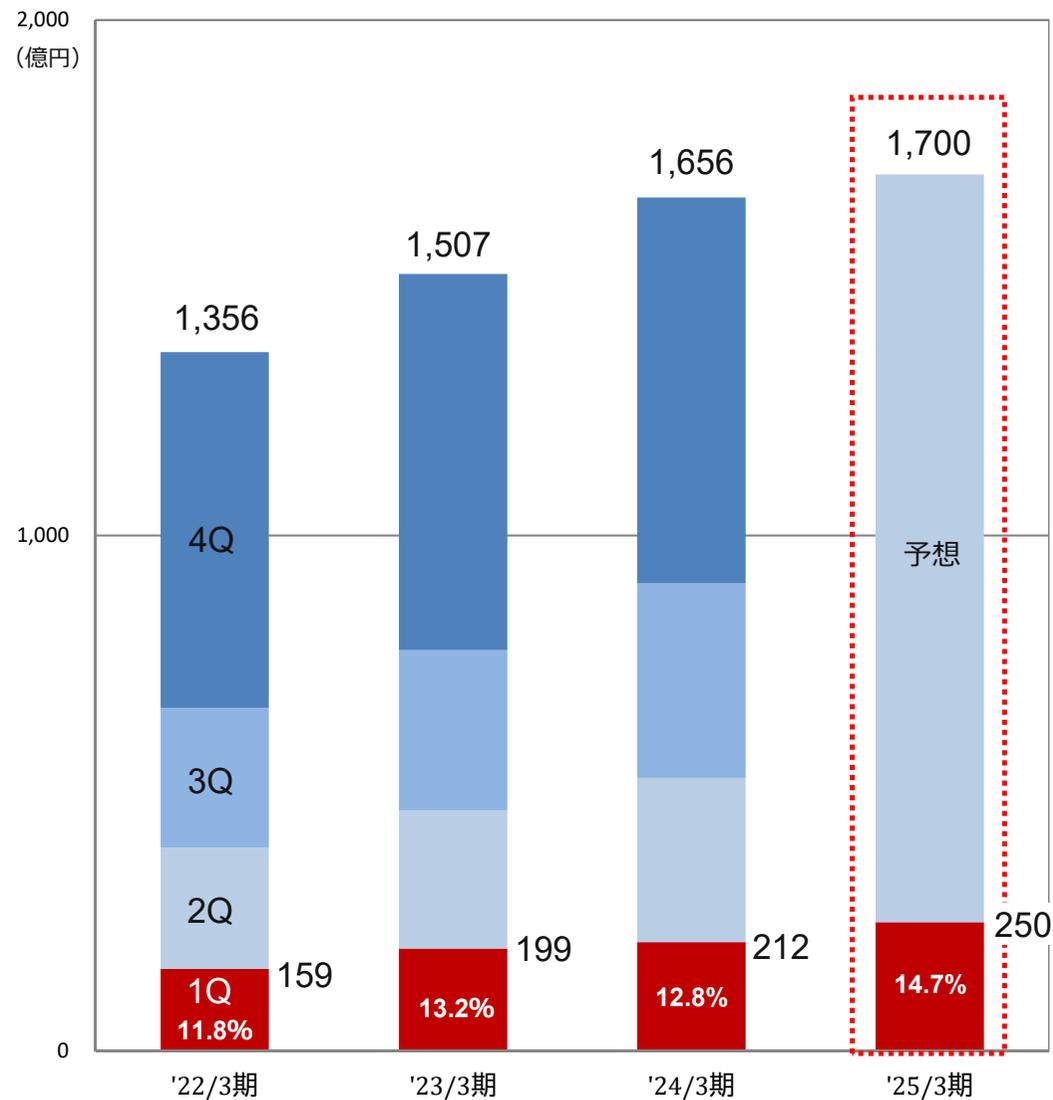
# '25/3期1Q 受注高・売上高推移（連結）

例年1Qの受注高は年間の2～3割、売上高は年間の1割～2割。当1Qも概ねその範囲で推移

### 【受注高】



### 【売上高】



※'23/3期 PPP大型案件「大阪市汚泥処理施設整備運営事業」を受注

# セグメント別概況 (連結)

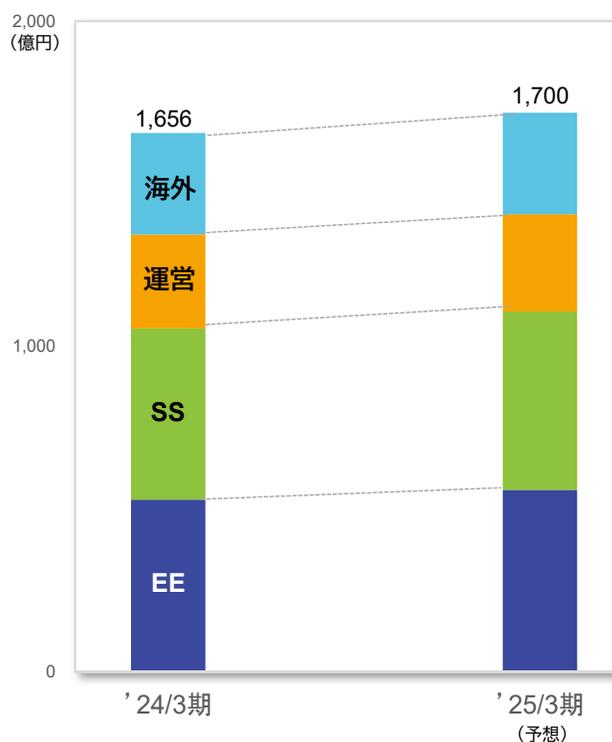
## 新セグメントによる'24/3期実績

## 売上・営業利益 計画イメージ

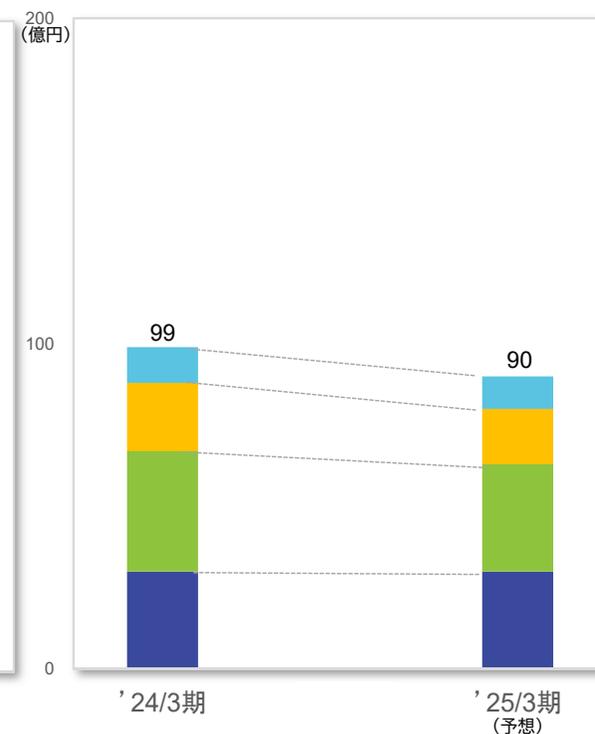
(億円)

	受注高	売上高	営業利益	
環境エンジニアリング事業	740	529	30	5.7%
システムソリューション事業	604	526	37	7.0%
運営事業	406	289	21	7.3%
海外事業	368	312	11	3.5%
合計	2,119	1,656	99	6.0%

売上高



営業利益



- 環境エンジニアリング事業(略語:EE事業) 水環境事業、資源環境事業  
国内浄水場・下水処理場・資源リサイクル施設向け、**機械設備の設計・建設**および**保守・維持管理**を主たる業務としています。
- システムソリューション事業(略語:SS事業) システムエンジニアリング事業、カスタマーエンジニアリング事業  
国内浄水場・下水処理場・資源リサイクル施設向け、**電気設備の設計・建設**および**保守・維持管理**を主たる業務としています。
- 運営事業  
国内浄水場・下水処理場・資源リサイクル**施設の運営**を主たる業務としています。
- 海外事業  
海外浄水場・下水処理場向け、施設・設備の**設計・建設**および**保守・維持管理**ならびに**民需事業**を主たる業務としています。

略語	EPC	Engineering, Procurement and Construction:設計・調達・建設
	O&M	Operation and Maintenance:運転・維持管理
	PPP	Public-Private Partnership(公民連携):公共サービスの提供に民間が参画する手法
	PFI	Private Finance Initiative: 公共施設の設計・建設、運転・維持管理、資金調達に民間を活用する公共事業の手法
	DBO	Design, Build and Operate:公共施設などの設計・建設、運転・維持管理に民間を活用する公共事業の手法
	コンセッション	公共施設の所有権と事業経営の許可を公的機関に残したまま、民間企業に事業運営権を長期間にわたって付与する手法

## ディスクロージャーポリシー

### 1. 基本方針

当社グループは、企業理念に基づき、社会とともに持続的な発展を遂げるため、すべてのステークホルダーの皆様への期待にお応えし、社会から信頼され、社会に貢献し続ける企業グループを目指します。この考え方にのっとり、当社グループは、ステークホルダーの皆様や社会に対して当社グループに係る企業情報を公正・公平かつ適時・適切に開示するとともに、ステークホルダーの皆様と積極的にコミュニケーションを図ることにより、当社グループに対する理解促進を図り、透明性・信頼性の高い経営に努めます。

### 2. 情報開示の基準

会社法、金融商品取引法などの諸法令および金融商品取引所の定める規則などにより開示が求められる企業情報について、それぞれの法令や規則などにのっとり、情報開示を行います。また、法令や規則などに該当しない企業情報であっても、ステークホルダーの皆様にとって有用であると判断される情報や社会的に開示が必要と判断される情報について、可能な限り積極的に情報開示を行います。

### 3. 情報開示の方法

上記の法令や規則などにより開示が求められる企業情報については、それぞれの法令や規則などで定められた方法により情報開示を行うとともに、当社ホームページに掲載します。上記の法令や規則などに該当しない企業情報については、その重要性や緊急性を考慮し、報道機関や当社ホームページなどを通じて情報開示を行います。

### 4. 情報開示後のコミュニケーション

開示した情報に関して、会見、説明会、取材、問い合わせへの回答などを通じ、ステークホルダーの皆様と積極的にコミュニケーションを図ります。また、コミュニケーションを通じてステークホルダーの皆様からいただいたご意見などは、当社グループ内で共有し、今後の参考とさせていただきます。

### 5. 沈黙期間

決算情報の漏洩を防ぎ、公平性を確保するため、決算(四半期決算を含む)期末日の翌日から決算発表までを沈黙期間とします。沈黙期間中は、業績予想の修正に関する情報開示を行った場合を除き、決算・業績見直しに関する会見、説明会、取材、問い合わせへの回答等など差し控えます。

### 6. 将来の見通しについて

当社グループが開示する業績予想、戦略、目標などのうち将来の見通しに関する記述は、当社グループがその時点で入手している情報および合理的であると判断される一定の前提を根拠としており、実際の業績などは様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

### 7. 社内体制の整備

ディスクロージャーポリシーを遵守し、適切な情報開示およびステークホルダーの皆様とのコミュニケーションが図れるよう、社内体制を構築するとともに社内規程を整備します。



### 【本資料に関するお問い合わせ先】

メタウォーター株式会社 経営企画室 コーポレートコミュニケーション部

Tel:03-6853-7317 Fax:03-6853-8709 E-mail:pr@metawater.co.jp